

老後の住まい決めた?

下

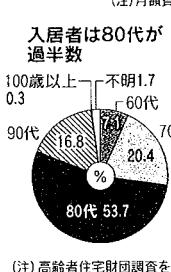
老後の住まいには多くの種類があるが、中でも最近注目を集めているのは「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）」だ。高額な一時金なしで入居できるパリアフリー仕様の賃貸住宅で、望めば介護サービスも受けられる。従来の有料老人ホームと何が違う、どう選べばよいのか。

佐藤菊子さん（仮名、92）は2011年11月に横浜市内にあるサ高住で、「ココカラアーバン日吉」に入居した。自宅で腰を痛めて入院したことがありましたが、退院した後に娘が探してくれた。事務の人もヘルパーさんも親切で、すっかり気に入った」と話す。

登録施設12万戸

サ高住、サービスの差大きく

サ高住と老人ホームの違いは…			
サ高住	住宅型老人ホーム	介護付き老人ホーム	
入居年齢	60歳以上	おおむね60歳以上	おおむね65歳以上
月額費用	15万～25万円	15万～30万円	20万～35万円
月額費用に含む主な内容	家賃・共益費・生活支援サービス費	家賃・食費・管理費	家賃・食費・管理費
要介護度が重くなつた時の対応	施設で差がある		原則居住可
介護サービス	外部業者の訪問介護		施設内で提供
特徴	高齢者の安全・安心に配慮した間取りや設備。安否確認や生活相談のサービスがある	食事や見守りなどのサービスが付く。介護事業所を併設し、要介護者に対応する施設もある	要介護・支援認定を受けていることが入居条件になることが多い。最近は入居一時金を必要としない施設も増えている



(注)高齢者住宅財團調査委員会



(注)各物件の最低金額を集計。長谷工

最後まで住めるか確認

くりを目的に、サ高住の仕組みがスタートしたのは11年10月。国が建築改修費の補助や税制優遇などの支援策を行ったこともあり、登録する施設が相次ぎ、戸数は15年3月末時点まで全国で約1万2千戸とした。その後のまでの選択肢として、高齢者の健康を高める一方で、聞えてくるのは有料老人ホームとの違いが分からぬといとの声だ。

サ高住はハード・ソフト両面で国が登録基準を設けたのが特徴。入居者は60歳以上、または要介護・要支援認定を受けていることが条件で、身でも配偶者と一緒にでも入

居者はおおむね65歳以上と
わかれている。広々たる設備等
についても基準はある。バリ
フリー構造も必須だ。
ところが、サービスにつ
ては「介護施設に近いもの」
とされ、最低限の安否確認
生活相談などといつて施設も
り、形態は多岐にわたる。
ニッセイ基礎研究所の山梨
子准主任研究員は指摘する
入居者の安否確認などのサ
ビス以外に、部屋の掃除や
灌、薬の管理や通院の送り
えなども実施しているところ
もあり、これが今後の費
の差になつて表れる。

る住宅型の有料老人ホームへと、同様のスタイル。この場合は、介護保険の限度額を超えて自己負担額が膨らむ可能性があるので要注意だ。

できる。比較対象になる有り老人ホームは年齢に条件はないが、実際には介護保険サ

担う。入居者の状態に合わせて必要なサービスを組み立て
る「カフェテリア型」だ。比
較的自立度が高い人が入居す

۱۰

サ高主が主目を秉める大き

もちろん、事業主体の健全性や入居率、スタッフや入居者の雰囲気、サービスや費用の内訳、どんな事が出来るかも下見して確認します。入居者本人ではなく、家族が探す場合も少なくないだろう。中には「一週間後に親のが退院していくので」となど、あわてて選ぶ家族もあるようだが、「普通の住宅を購入する際にはそんな短期間に決めるのはまず。老人ホームなど他の施設も含め、早い時期から研究しておくべきだ」と、長谷工総合研究所の吉村直子上席主任研究員は助言する。